

2013年度

聴覚障害児の教育を考える市民の会

聴覚障害児への情報保障の提供および講演会の開催

事業まとめ

2013年4月1日～2014年3月31日 実施

■ 実施事業 ■

1、学校情報支援を体感しよう！

2013（平成 25）年 7 月 13 日（土）

2、宮崎県立高等学校生活支援推進事業視察

2013（平成 25）年 9 月 4 日（水）・5 日（木）

3、兵庫県教育委員会訪問

2013（平成 25）年 10 月 28 日（月）

4、学校情報支援の制度化を考える学習会

2013（平成 25）年 11 月 2 日（土）

5、学校情報支援の実現をめざす学習会

2014（平成 26）年 3 月 16 日（日）

6、情報支援を活用するための学習会

2014（平成 26）年 3 月 21 日（金・祝）

7、遠隔支援システムを理解する学習会

2014（平成 26）年 3 月 29 日（土）

8、学校情報支援

2013（平成 25）年 11 月 22 日（金）

兵庫県立宝塚東高等学校創立記念講演会

9、授業支援テープ起こし

2013（平成 25）年 11 月～12 月 90 分授業 5 回分

10、パソコンおよび拡張機器の購入

1、《学校情報支援を体感しよう！》

実施日時 2013（平成25）年7月13日（土） 午後1時30分～4時30分

会場 宝塚市立地域利用施設 雲雀丘倶楽部 3階 ホール

講師 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 准教授 白澤麻弓氏

参加者数 30名（うち体験者4名）

◆内容◆

小学生・中学生の体験者が、情報支援を受けながら、講師による模擬講義を聞く。

希望する市民、保護者はその様子を参観する。

実際に情報支援を受けた感想を発表、参観した感想を発表し、意見交換を行う。

◆講師から一言◆

どの部分で情報支援を必要とするか、講師の立つ位置から一目瞭然だった。

参観者（保護者）もその様子を見ることができたら、もっと理解ができると思う。

情報支援者も、あいまいな表現の時には顔をあげ、その意味を確認していることが動作から分かった。



◆参加者から◆

PCによるノートテイクの実演が見られてよかった。

体験した子どもの声が聴けたことがよかった。

早い段階で支援を受け、選択できる年齢になると自分で判断できるのではと思った。

学校教育には情報支援が必要、高校・大学も同じ。

公的支援が受けられるよう人材の確保も必要。

2、《宮崎県立高等学校生活支援推進事業視察》

実施日時 2013（平成25）年9月4日（水）～5日（木）

会場 宮崎県内

講師 宮崎県教育研修センター 井上秀和氏

宮崎県特別支援教育室 堀克氏

参加者数 当会から2名

他に松崎丈宮城教育大学准教授

小笠原恵美子長野サマライズ・センター事務局長

日本財団から担当者、手話通訳の2名

◆内容◆

9月4日（水）

宮崎県教育研修センター訪問

井上秀和氏より、宮崎県内の聴覚障害児・生徒が学ぶ環境の概要説明を受け意見交換

宮崎県特別支援教育室訪問

堀克氏より、県立高等学校生活支援推進事業の概要説明を受け、意見交換

県立高等学校生活支援推進事業の生活支援員配置校（宮崎県立都城工業高校）訪問

生活支援推進事業を利用して学ぶ男子生徒の授業風景を参観

担当教諭、聴覚障害生徒を交えて意見交換

宮崎県立都城さくら聴覚支援学校訪問

地域支援担当と情報交換

保護者・学生との懇談（宮崎県聴覚障害児を持つ親の会）

9月5日（木）

県立高等学校生活支援推進事業の生活支援員配置校（宮崎県立日南振徳高等学校）訪問

生活支援推進事業を利用して学ぶ女子生徒の授業風景を参観

担当教諭、聴覚障害生徒を交えて意見交換

3、《兵庫県教育委員会訪問》

実施日時 2013（平成25）年10月28日（月） 午後1時30分～2時30分

会場 兵庫県議会会議室

講師 教育課程担当：中野氏 特別支援課長：森下氏

参加者数 当会から4名

◆内容◆

兵庫県難聴児親の会が中心に訪問事業を実施し、当会からは参加させていただき、意見交換を実施。

宮崎県が実施する事業の説明を含め、聴覚障害児が学ぶ現状を説明し、県下においても宮崎県同様に制度が整うよう希望を伝える。

行政当局も、宮崎県の事業は把握されており、県内においても同様の制度が運用されている旨の説明を受ける。

今後においては、制度利用可能な対象者の拡大をお願いした。



4、《学校情報支援の制度化を考える学習会》

実施日時 2013（平成25）年11月2日（土） 午後1時30分～4時30分

会場 神戸市勤労会館

講師 宮崎県聴覚障害児を持つ親の会 原口文代氏 山本志津代氏

手話通訳2名 パソコン要約筆記3名

参加者数 19名

◆内容◆

9月に行った宮崎県立高等学校生活支援推進事業の視察報告を保護者の立場と支援者の立場で行った後、訪問した折に面識を得た宮崎県聴覚障害児を持つ親の会代表と会員の2名を講師に、親の会立ち上げ前から、立ち上げ、そして情報支援制度の確立までの取り組みを細かに話していただき、地元で制度化を実現するための参考とした。

子どもの聴覚障害が分かってから、家庭教育としての取り組み、それに用いた手作りの資料等多数を持参いただき、参考にと拝見させていただいた。



言葉を習得させるには、実体験とともに、その時の感情も含めて経験させることが大切なこととなる。

5、《学校情報支援の実現をめざす学習会》

実施日時 2014（平成26）年3月16日（日） 午後1時30分～4時30分

会場 明石市立産業交流センター

講師 兵庫県難聴児親の会 笹倉博巳氏

手話通訳3名 手書き要約筆記4名

参加者数 36名（うち体験者11名）

◆内容◆

小学生・中学生の体験者が、講師による模擬講義を情報支援を受けながら聞く。

参加者、保護者はその様子を参観する。

実際に情報支援を受けた感想を発表、参観した感想を発表し、意見交換を行う。



7月に実施した「学校情報支援を体感しよう！」に参加でいなかった方から、地元で実施してほしいと希望があり実施。

支援を受けている子どもの表情がわかるよう、カメラで様子をモニターし壁に映した。

◆参加者から◆

子ども自身が今まで経験したことのない情報支援を経験できよかった。

他市（宝塚市）の制度実現までの話が聞けてよかった。（小中学校のみ情報支援がある）

地元でもぜひ情報支援の制度を実現させたい。

6、《情報支援を活用するための学習会》

実施日時 2014（平成26）年3月21日（金・祝）

午前9時30分～12時 午後1時30分～4時

会場 プレラにしのみや（西宮市中央公民館）

講師 田中美郷教育研究所ノーサイドクリニック 言語聴覚士 芦野聡子氏

手話通訳3名 パソコン要約筆記4名

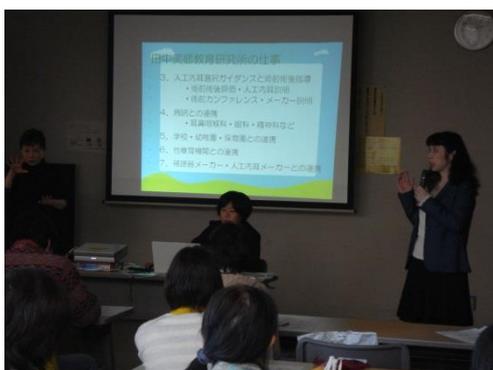
参加者数 午前：相談5名 午後：21名

◆内容◆

午前は、事前に受け付けた希望者の相談。

午後は、聴覚に障害がある子どもが情報をうまく活用するためには何が必要か、補聴器や人工内耳の子どもにとって大事な「ことば」、思考するには言葉が必要、その言葉をどうやって育てるのか、どのように生きた言語にしていくのかを、日常の言葉の獲得訓練等の様子を紹介していただきながらお話しいただく。

質疑応答では、参加者が抱える問題に細かく答えていただいた。



◆参加者から◆

我が子への適切な子育てができていない。

親が一番の理解者であるべきなのにできていないことにショックを受けました。

子どものことをどれだけ理解しているかと言われドキッとしました。

具体的なことを提示して下さったので早速取り入れたい。

7、《遠隔支援システムを理解する学習会》

実施日時 2014（平成26）年3月29日（土） 午後1時30分～4時

会場 宝塚市立地域利用施設雲雀丘倶楽部

講師 長野サマライズ・センター 事務局長 小笠原恵美子氏

参加者数 16名

◆内容◆

スマートフォンや最新のシステム、ITC（情報通信コミュニケーション）技術を活用して遠隔から支援を行う「遠隔支援システム」の話聞き、離れたところからの情報支援を学校で活用できるか考える機会とする。

◆参加者から◆

遠隔の利点が学べた。

多感な年ごろになった娘にとってピッタリな支援だと感じました。

仕組みが分かりました。

支援に前向きでない学校も理解してくれそうに思いました。

ネット社会で機器やソフトの進化が著しく、ついていくのが大変です。

教育の情報支援と要約筆記はイコールでないと知りよかった。

地域や団体を越えた支援について考えることができた。

※通信用端末（タブレット）、通信用のネットワーク設定、通信のコスト、従事者と解決すべき事柄が多く存在するように思える。

実現させるためには、たくさんの課題をクリアしなければいけない。

時代の流れなのか、目先の新しさなのか、外部から人が入ることを拒む教育現場で理解が深まる傾向を感じ多少の疑問も覚える。

8、《学校情報支援》

実施日時 2013（平成25）年11月22日（金） 午前9時～11時

会場 兵庫県立宝塚東高等学校 体育館

従事者数 2名

機材 表示用PC1台、無線ランルーター1台、入力用個人PC各自1台

内容 学校の創立記念事業に伴う講演会の会場において、講演内容を情報支援する。

9、《授業情報支援（テープ起こし）》

実施日時 2013（平成25）年10月～12月

回数 5回

科目 小論文の講義（90分）

従事者 2名

方法 mp3の音データをネットで受け取り、文字起こしをし、データをメールに添付して返送する。（学習のため、2日後までに返送を希望）

10、《パソコンおよび拡張機器の購入》

先に別団体から表示用として寄贈を受けたPCが不調となったため、新規購入。

（Fujitsu LIFEBOOK SH90/M）

及び、ビデオカメラの映像をPC画面にモニターするためのアダプターを購入

資料編

◎事業実施案内ちらし

平成 25 年 7 月 13 日

平成 25 年 11 月 2 日

平成 26 年 3 月 16 日

平成 26 年 3 月 21 日

平成 26 年 3 月 29 日

◎アンケート実施内容

平成 25 年 7 月 13 日

平成 25 年 11 月 2 日

平成 26 年 3 月 16 日

平成 26 年 3 月 21 日

平成 26 年 3 月 29 日

◎アンケート回答内容

平成 25 年 7 月 13 日

平成 25 年 11 月 2 日

平成 26 年 3 月 16 日

平成 26 年 3 月 21 日

平成 26 年 3 月 29 日

■ 事業実施案内らし ■

聴覚障害児生徒は先生の話をごんなふうじ理解しようとしているのでしょう？

学校情報支援を体感しよう！

聴覚障害のある子どもが地域の学校で学んでいます。

彼や彼女たちは、どのようにして先生の話をお聞いているのでしょう？

お友達とは楽しく過ごせているのでしょうか？ 笑顔は輝いているのでしょうか？

学びを支援する、情報支援があります。

ごんな風に支援を受けているのか体感しませんか？

聴覚障害児の教育を考ふる市民の会では、聴覚障害児童生徒への要約筆記や手話等による情報保障のための支援をより良いものとするために、いろいろな取り組みを行ってあります。

今回は、学校での情報支援を知ってもらふための学習会を開催いたします。

興味のある方、ちょっと聞いてみようと思われ方、どうぞご参加ください。

手話通訳 要約筆記通訳 つきます 一時保育希望の方はお問い合わせください
(1歳～ 申し込み締め切り7月9日)

記

- ◇ 日時 平成25年 7月13日 (土)
午後 1時30分 ~ 4時30分
- ◇ 場所 宝塚市立地域利用施設 雲雀丘倶楽部 ホール
(宝塚市雲雀丘1丁目1番1号)
公共交通機関をご利用ください。 阪急雲雀丘花屋敷駅から徒歩1分
- ◇ 参加費 無料 (当日参加可能です)
- ◇ 内容 講演 聴覚障害児・者への情報支援の在り方

白澤麻弓 (しらすまゆみ) 氏

学校情報支援の様子を見ながら (体験も可) お話を聞きます。

意見交換

- <講師紹介> 白澤 麻弓氏 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 准教授
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 事務局長
著書「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社 (2007年)
「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画 (2002年)
「大学ノートテイク入門」など

- 問い合わせ先 宝塚市ボランティア活動センター
T/0797-86-5001 F/0797-83-2425
- 主催 聴覚障害児の教育を考ふる市民の会
宝塚市難聴言語障害児親の会
- 後援 宝塚市教育委員会
宝塚市PTA協議会

この事業は「ボランティア活動助成プロジェクト助成」を受け実施します。

学校情報支援の制度化を考える学習会

通常学校で学ぶ聴覚障害生徒に授業の内容を文字で伝える学校情報支援
公立高校での制度化実現を目指して取り組みを進めています。
先に制度化が実現している先進地に視察に行きました。その報告を兼ねたお話と、
制度化実現に携わった方をお招きして制度化を考える学習会を実施します。
ぜひ、ご参加いただき皆さんのご意見もお聞かせください。

《日 時》 平成25年11月 2日(土) 午後1時30分～4時30分ごろ

《会 場》 神戸市勤労会館 4階 409号室 アクセスは下記を参照してください
(学習会内容について、会場への問い合わせはご遠慮ください)

《内 容》 宮崎県立高等学校生活支援推進事業関係視察報告 2名(兵庫から)
生活支援推進事業実現に係わった保護者からの説明 2名(宮崎から)
質疑応答
その他

手話通訳・要約筆記 つきです

《参加費》 無料 (会場準備のため下記まで参加申し込みをお願いいたします)

《一時保育》 希望の方は下記へ申し込みをお願いします。(申し込み期日10月29日正午)

《参加・一時保育 申し込み 問い合わせ》
宝塚市ボランティア活動センター ☎0797-86-5001 Fax0797-83-2425

主催 聴覚障害児の教育を考える市民の会
兵庫県難聴児親の会

会場アクセス



市営地下鉄・JR・阪急・阪神・ポートライナー
各三宮駅から東へ徒歩5分
〒651-0096
神戸市中央区雲井通5-1-2
TEL 078-232-1881

聴覚障害児生徒は先生の話をごんなふうじ理解しようとしているのでしょう？

学校情報支援の実現をめざす学習会

聴覚障害のある子どもが地域の学校で学んでいます。
彼や彼女たちは、どのようにして先生の話をお聞いているのでしょうか？
お友達とは楽しく過ごせているのでしょうか？ 笑顔は輝いているのでしょうか？

学びを支援する、情報支援があります。
どんな風に支援を受けているのかちょっと体験しませんか？

聴覚障害児の教育を考える市民の会では、聴覚障害児童生徒への要約筆記や手話等による情報保障のための支援をより良いものとするために、いろいろな取り組みを行っています。

学校での情報支援を知ってもらうための学習会を開催いたします。
興味のある方、ちょっと聞いてみようと思われる方、どうぞご参加ください。

手話通訳 要約筆記通訳 つきます 一時保育希望の方はお問い合わせください
(1歳～ 申し込み締め切り3月14日)

記

- ◇ 日 時 平成26年 3月16日 (日)
午後 1時30分 ～ 4時30分
- ◇ 場 所 明石市立産業交流センター (明石市大久保町ゆりのき通1-4-7)
JR大久保駅南口より西へ徒歩1～2分 コインパーキングも隣接して

います

- ◇ 参加費 無料 (当日参加可能です)
- ◇ 内 容 情報支援体験 (パソコンによる情報支援を体験)
意見交換

■ 参加申し込み・問い合わせ先 宝塚市ボランティア活動センター
TEL0797-86-5001 FAX0797-83-2425

■ 主 催 聴覚障害児の教育を考える市民の会
兵庫県難聴児親の会

明石市産業交流センター (JR大久保駅からすぐ)



JR大久保駅 (南口) より 徒歩 1～2分

国道 250 号 (明姫幹線) から

イオンの交差点を北側 (駅方面) に曲がり、2 つ目の信号を左折、100m ほど進んで右折して下さい。そのまま道なりに JR の線路沿いを走っていただくと、左手に建物がございます。

第 2 神明道路から

大久保 IC で降りていただき、県道 148 号から国道 2 号を目指して南に進んで下さい。国道 2 号の信号を右折、右手にネットトヨタが見える信号を左折します。

そして、JR 線路下を通過して 250m ほど進んで左折し、さらに 150m ほど進んで左折して下さい。

そのまま道なりに JR の線路沿いを走っていただくと、左手に建物がございます。

と、左手に建物がございます。

聴覚障害児は言葉や話をどんなふうに理解し活用しようとしているのでしょうか？

情報支援を活用するための学習会

聴覚に障害のある子どもが情報をうまく活用するためには何が必要なのでしょう？

補聴器のお子さんや人工内耳のお子さんにとっても大事な「ことば」

思考するには、言葉が必要です。

その言葉をどうやって育てるのか？

どのように生きた言語にしていくのか？

今回は、田中美郷教育研究所ノーサイドクリニックの主任言語聴覚士
芦野聡子先生をお招きし、そういったところを中心にお話ししていただく
相談と学習会を実施いたします。

「聴覚障害児の教育を考える市民の会」では、聴覚障害児童生徒への要約筆記や手話等による
情報保障のための支援をより良いものとするために、いろいろな取り組みを行っています。

手話通訳、要約筆記通訳つきます。 一時保育希望の方は、お問い合わせください。
(1歳～ 申し込み締め切り3月19日)

記

- ◇ 日 時 平成26年 3月21日(金・祝)
午前10時00分～12時 午後 1時30分 ～ 4時
- ◇ 場 所 西宮市立中央公民館(プレラにしのみや)
〒663-8204 西宮市高松町4-8 プレラにしのみや内
- ◇ 参加費 無料(当日参加可能です)
- ◇ 内 容 午前 相談会 5～6名まで(先着順)
午後 講演会 聴覚障害児のための言葉の指導
～我が子のことばを育てよう！～

- 参加申し込み・問い合わせ先 宝塚市ボランティア活動センター
TEL0797-86-5001 FAX0797-83-2425
- 相談希望の方は 兵庫県難聴児親の会 kenoyanokai.jyunbi@gmail.com 迄
- 主 催 聴覚障害児の教育を考える市民の会
兵庫県難聴児親の会

<講師> 芦野 聡子氏 プロフィール

言語聴覚士

日本社会事業大学

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院

聴能言語専門職員養成課程卒業

帝京大学耳鼻咽喉科を経て、現在、田中美郷教育研究所ノーサイドクリニック
主任言語聴覚士 専門は0歳からの聴覚障害児のためのことばの教育
全国から通ってくる子どもたちの教育に日々奮闘中

遠隔支援システムを理解する 学習会

聴覚障害児の教育を考える市民の会では、聴覚障害児童生徒への要約筆記や手話等による情報保障のための支援をより良いものとするために、いろいろな取り組みを行っています。

今回は離れたところからの情報支援「遠隔支援システム」を
学校で活用できるか検討をしてみたいと思います。

みなさんのご参加お待ちしております。

- 記
- ◇ 日 時 平成26年 3月29日(土)
午後 1時30分 ~ 4時
 - ◇ 場 所 宝塚市立地域利用施設 雲雀丘倶楽部 2階 会議室1
宝塚市雲雀丘1-1-1 (tel/fax 072-758-7680)
<http://hibarigaoka-club.net/>
施設に駐車場はありません。
阪急雲雀丘花屋敷駅 降車 西改札口を出て左(西)に徒歩1分
 - ◇ 参加費 無料(当日参加可能です)
 - ◇ 内 容 遠隔支援システムを使った授業の情報保障を理解しよう

講師紹介 長野サマライズ・センター 事務局長 小笠原 恵美子氏

特定非営利活動法人 長野サマライズ・センター <http://www.nagasama.net/>
主にパソコン文字通訳サービスの提供で、聴覚障がい児を中心に、高齢者、障害児・者の
社会参加をサポートする NPO 法人。
特に、企業や大学などと協働で、スマートフォンや最新のシステムといった“ICT”情報通信コミュニケーション技術を積極的に活用し、遠隔からでも支援が行える『遠隔支援システム』で、聴覚障がいのあるお子さんたちの教育現場での「バリア」をなくしてゆく活動に取り組んでいる。
現在、普通学校に通う小学生、中学生、高校生の授業で情報保障が制度化されることを願って、
遠隔支援システムを使つての授業での情報保障を無料体験できる事業を実施中。

- 参加申し込み・問い合わせ先 宝塚市ボランティア活動センター
TEL0797-86-5001 FAX0797-83-2425
- 主 催 聴覚障害児の教育を考える市民の会
兵庫県難聴児親の会

(日本財団の支援事業です)

■ アンケート内容 ■

平成 25 年 7 月 13 日実施

《学校情報支援を体感しよう！》 アンケート

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？
(市)

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌（誌名： ） ・web ページ ・知人の紹介
 - ・新聞記事（ 新聞） ・広報誌 ・社協だより
 - ・ちらし ・他（ ）
- 2、 地元で学校情報支援はありますか？
 - ・ある（ 市） ・ない
 - ・分からない
- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。
- 4、 特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
- 5、 ご意見、ご感想を自由にお書きください。

平成 25 年 11 月 2 日実施

《学校情報支援の制度を考える学習会》 アンケート

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？
(市)

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌（誌名： ） ・web ページ ・知人の紹介
 - ・新聞記事（ 新聞） ・広報誌 ・社協だより
 - ・ちらし ・他（ ）
- 2、 近くの学校に情報支援はありますか？
 - ・ある それはどこですか？（ 町・市の小学校 中学校 高校 特別支援学校 ）
 - ・ない
 - ・分からない
- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。

4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。

5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。

平成 26 年 3 月 16 日実施

《学校情報支援の実現をめざす学習会》 アンケート 20140316

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？

(市)

1、事業の実施は何でお知りになりましたか？

- ・タウン誌 (誌名:) ・web ページ ・知人の紹介
- ・新聞記事 (新聞) ・広報誌 ・社協だより
- ・ちらし ・他 ()

2、近くの学校に情報支援はありますか？

- ・ある それはどこですか？ (町・市の小学校 中学校 高校 特別支援学校)

- ・ない

- ・分からない

3、特に良かったと思われたことがあればお書きください。

4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。

5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。

聴覚障害児に情報支援が必要だと思われますか？

- ・必要だと思う それは、いつ (何歳) ごろから可能だと思われますか？

- ・必要ないと思う それは、なぜですか？

平成 26 年 3 月 21 日実施

《情報支援を活用するための学習会》 アンケート 20140321

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？
(市)

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌 (誌名：) ・web ページ ・知人の紹介
 - ・新聞記事 (新聞) ・広報誌 ・社協だより
 - ・ちらし ・他 ()

- 2、 近くの学校に情報支援はありますか？
 - ・ある それはどこですか？ (町・市の小学校 中学校 高校 特別支援学校)

 - ・ない

 - ・分からない

- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。

- 4、 特に悪かったと思われたことがあればお書きください。

- 5、 ご意見、ご感想を自由にお書きください。

平成 26 年 3 月 29 日実施

《遠隔支援システムを理解する学習会》 アンケート 20140329

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？
(市)

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌 (誌名：) ・web ページ ・知人の紹介
 - ・新聞記事 (新聞) ・広報誌 ・社協だより
 - ・ちらし ・他 ()

- 2、 近くの学校に情報支援はありますか？
 - ・ある それはどこですか？ (町・市の小学校 中学校 高校 特別支援学校)

・ない

・分からない

3、特に良かったと思われたことがあればお書きください。

4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。

5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。

6、お近くの学校で遠隔支援システムの実現は可能でしょうか？

・可能だと思う ・可能ではない ・分からない

・実現できるように説明してみたい

ありがとうございました。

◎アンケート回答

《学校情報支援を体感しよう！》 アンケート

実施日 平成25年7月13日(土) 回答枚数7

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？

宝塚市 明石市 新温泉町 滋賀県高島市

1、事業の実施は何でお知りになりましたか？

- ・タウン誌(誌名:てくてく:1) ・web ページ(1)・知人の紹介(2)
- ・新聞記事(新聞) ・広報誌 ・社協だより(1)
- ・ちらし(1)・他(所属団体:2)

2、地元に学校情報支援はありますか？

- ・ある:1(宝塚市) ・ない:2(滋賀県高島市、新温泉町)
- ・分からない:3(明石市、宝塚市)

3、特に良かったと思われたことがあればお書きください。

- *PCによるノートテイク実演を見られたこと、先生の話が分かりやすくよかった
- *まだ子どもが小さいから今は考えていなかったけど、先の事を考えたら必要性がすごくわかった。
- *自分が小さい頃は難聴学級で授業を受けて(国語のみ)残りの授業は交流学級で受けていたのですが、何も分からずに45分間の授業が終わった感じでした。
- *子どもには同じようにはしてほしくないので、この企画に参加して希望が見えてきました。
- *できるだけ子どもたちには情報支援があるよって事を伝えていきます。
ありがとうございました。
- *聴障学生のコミュニケーションに対するニーズの多様性のあることが分かった。
- *初めて知った事柄、たくさん教えていただきありがとうございました。
会場の人からの質問の中に知りたい事すべて出たので、すっきりしました。
- *本人(模擬講義を受けてくださった人)のお声が聞けたこと。
- *ご本人が聴障でお子様も聴障といった当事者の声が聞けたこと。
- *支援者のご苦勞(ご本人はどう思われているかわかりませんが)を実感しました。

- 4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
- * 実演に参加してくれた子どもさんたち、難しい内容で退屈そうでちょっと気の毒でした。
- 5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。
- * 全くの素人、初体験、これからいろいろ考えていけるきっかけになりました
 - * 小学校の役員をしています、夏休みプール開放事業を実施するにあたり、特別支援を要する児童への対応をいろいろ考える機会がありました。
その中で、難聴児、難聴学級という言葉聞いたのをきっかけに来させていただきました
 - * 情報支援を利用したのが小学校2年生〜とか聞いたが、幼稚園児から始めようと思えば利用はできるのか？
 - * また、早いうちに始めて慣らす方法でやり、選択が出来る年齢になると、いる、いないと判断ができるのではないかと思った。
 - * 聞こえない子どもが、十分な情報を伝えるには、やっぱり情報支援を受けてほしいと思いました。
 - * 明石市内で情報支援があるかどうかはわかりませんが、今後の事を考えて始めたいと思いました。
 - * 学校教育には支援員が必要、特に高校、大学も。
 - * 公的支援が受けられるように、人材保障として。
 - * 当事者の親の熱意も大切（組織活動を広げること）
 - * 宝塚は進んでいると聞いた、神戸は進んでいない、聞こえない学生は多いと思うが啓発は大切だ。
 - * 大学での手話の利用ニーズはあるがそれにこたえる通訳者は少ないこと？
 - * ボランティアから始まって、制度化していく、そこにはどれだけの積み重ねと粘り、挑戦があったのだろうかと思います。
 - * 大学での情報保障が広がってきたのは素晴らしいと思いますが、その前の高校で（公立高校での）情報保障が今一つ進んでいないということがショックでした。
 - * あと、従事されている方の労災（とは悪いかもしれないけど）が気になります。
 - * いろいろ参考になりました、ありがとうございました。

《学校情報支援の制度を考える学習会》 アンケート回答

平成25年11月2日 神戸市勤労会館 4階 409号室
13:30~14:30

※事業の振り返りの参考にさせていただきます、ご協力をお願いいたします。
お名前の記入はいりません。

◎どちらから来られましたか？
(宍粟市1 宝塚市5 神戸市2)

1、事業の実施は何でお知りになりましたか？

- ・タウン誌（誌名： ）
- ・web ページ(1)
- ・知人の紹介
- ・新聞記事（ 新聞）
- ・広報誌
- ・社協だより(1)
- ・ちらし
- ・他（兵庫県難聴児親の会 兵庫県立聴覚障害者情報センター）

2、近くの学校に情報支援はありますか？

- ・ある それはどこですか？（ 町・市の小学校 中学校 高校 特別支援学校 ）
- ・ない(1)
- ・分からない(2)

3、特に良かったと思われたことがあればお書きください。

- * 幼児期の大切なことの話が聞けて良かった。
- * ノートテイクという言葉が初めて知り、そういう情報保障のやり方があると知ることができた。

4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。

5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。

- * 難聴に関しての学習会・講演会の話はいつも本当にためになるのでありがたい。
- * もっと開催して欲しい。
- * お二人の実体験（幼児期から大学まで）を聞き、感心と頭が下がる思いになりました。
- * 健聴・難聴関係なく「たんぼぼ会」のような親子の関わりができれば良いと思いました。
- * 活動を通して制度（ノートテイク）に継いでいかれた熱意には感動するとともにパワーを頂きました。
- * 今日は本当にご苦勞様でしたありがとうございます。
- * 宮崎県の親の会の原口さん、山本さんの活動内容を聞いて、その熱心さに率直に関心いたしました。
- * 娘の難聴が分かったのは今年に入ってからということもあり、まだまだ知識不足で、自分自身が健聴なので娘を含めて難聴の方や子どもたちにとって、これからどんな支援が必要か、どのようにサポートしていったらいいのか、とてもよくわかりました。
- * 今後もできるだけ多くの情報を頼りに勉強し、自分を安定させて、娘をサポート

して行こう！と思えることが出来ました。ありがとうございました。

《学校情報支援の実現をめざす学習会》 アンケート 20140316 回答

◎どちらから来られましたか？

(神戸市1・伊丹市1・明石市10)

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌 (誌名：) ・web ページ
 - ・知人の紹介10 (発信元は兵庫県難聴児親の会)
 - ・新聞記事 (新聞) ・広報誌 ・社協だより
 - ・ちらし ・他2 (在籍児保護者、兵庫県難聴児親の会1)

- 2、 近くの学校に情報支援はありますか？
 - ・ある6
(神戸市の小学校1・明石市の小学校3、宝塚市の中学校1、特別支援学校2)

 - ・ない3 (明石市)

 - ・分からない3 (明石市)

- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。
 - *子どもはまだ未就学ですが、将来の事を考えたら、必要と実感はしました。けど、 どれが必要なのかは、子どもが決めれば、それで良いかなと思いました。
 - *体験できた事、初めての体験で疑問や新しい考え方が生まれた。
 - *情報支援という事を知る事ができた、です。
 - *子ども自身が今まで経験したことの無い情報体験を経験できたこと。宝塚での制度化実現までの具体的な話が伺えたこと。
 - *情報支援の事が具体的にわかったこと。
 - *情報保障の現状、子ども達の気持ちが聞けたこと。
 - *実際に子どもが体験している様子を後ろから見られて、感想を聞くことで、情報支援とはどういうことか？というのを知ることができた。私がたまたま、ノートテイクPCの要約の画面も見える場所に座っていたので、違い(支援の仕方)も分かりやすくてよかったです。
 - *PCテイクの体験と後の意見交換は勉強になりました。
 - *PCテイク～初めてだったので。(息子にとっては)
 - *初めて学びました。勉強になる話が聞けてありがたかったです。
 - *情報支援について(先進校(市)の話・現状・etc)

- 4、 特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
 - *特になし。4
 - *子どもが見ているPC画面を親も見れたらよかった。
 - *ここへ来る前に、今日はどういうことがあるかを聞かせてきていたのですが、

初めてのことで、最初の方は、前で話をしている人が、誰に向かって話していることなのか？みんなに向けて（自分も含めて）ということが分かっていなかったのでは？と思いました。始めに少し、今日することを説明があれば良かったかと思いました。

- *特にないが、案内に何階のどこの部屋かが記載されておらず迷いました。
- *PCテイクの様子も見てみたかったです。

5、 ご意見、ご感想を自由にお書きください。

- *あと2年で上の子が小学校に入るので、その時に体験出来たら良いなと思いました。 手話、ノートテイク、PC等で・・・
- *聞こえを文字にするのであれば、全てひらがなで書く必要があるのでは？と思いました。
初めての言葉等、読み方を覚える機会は別にあるのでしょうか？
- *耳で一生懸命聴いている毎日なので、少しでも楽に勉強していける手段があることを知ったので、利用できたらいいです。
- *勉強会開催の告知方法をもっと広くしてほしいと思った。
要約筆記がていねいで分かりやすかった。
- *今日は子どもを体験させることができなかつたのが残念です。
明石市にも情報支援の制度をぜひ実現させてほしいと思いました。
- *今日は貴重なお話を聞かせていただくことができました。ありがとうございました。
親がこういう支援の方法があるということをもっと知らなければ、子どもにもいかなないので親も勉強し、子どもと一緒に方法を選んでやらないと。
- *今後につながる話が聞けました。子ども達が楽に話が聞ける体制づくりができるように働きかけていきたいと思えます。
- *中学生になって補聴器をつけて、ろう学校の通級制度も使っている。
今回は短時間のPC要約筆記だったので、50分、本物の授業を体験させてもらえたら・・・と思った。
難聴、ろう児の支援需要について、当事者（難聴者、ろう者）の体験談を子どもたちだけでやるような機会があると良いかと思う。
- *ろう学校を離れて生活しています。まだまだ子どものためにできる事、してあげないといけない事があるな一と思いました。明日から頑張ります。ありがとうございました。
- *保護者の方の生の声が聞けて良かったです。もっとお話しが聞きたかったです。

聴覚障害児に情報支援が必要だと思われますか？

- ・必要だと思う12 それは、いつ（何歳）ごろから可能だと思われますか？
 - *子どもの意思、必要と思う事が分かったら可能。
 - *新しい単語を覚える必要が増える時、中学生くらい？
今なら子どもの席にモニターをつけて筆記者と離れることも可能？（子どもが嫌がったら）
 - *子どもが困った時では遅いと思うので小学4年生ぐらい。
 - *中学校から。
 - *小学校高学年
 - *親としてはいつ頃必要か分かりませんが、自分が必要なものを選んで決めてほしい。

- *慣れる機会が必要だと思いました。ずっとでなくても少しずつ慣れさせ、身近なものに感じることができるよう。
- *ある程度文章や漢字が読めるようになってから。
- *聴力レベルによる。
- *支援の方法によって違うので、はっきりとは言えない。
- *その子によって時期は違うと思いますが、中学年頃から。

・必要ないと思う 0 それは、なぜですか？

《情報支援を活用するための学習会》 アンケート 20140321 回答

◎どちらから来られましたか？（参加13名）

（神戸市2、西宮市2、明石市1、新温泉町1、宝塚市1）

- 1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？
 - ・タウン誌（誌名：宝塚てくてく） ・web ページ
 - ・知人の紹介（兵庫県難聴児親の会、西宮難聴児親の会）
 - ・新聞記事（神戸新聞） ・広報誌 ・社協だより（宝塚）
 - ・ちらし ・他（ ）

- 2、 近くの学校に情報支援はありますか？
 - ・ある それはどこですか？
（ 町・市の小学校 中学校 高校 こばと聴覚特別支援学校 2 ）
 - ・ない 1
 - ・分からない 2

- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。
 - *まだまだ勉強不足で（親が情報をつかめてなく）きちんとされている親御さんに比べ我が子への適切な子育てが出来ていないことを申し訳なく思いました。 地域的に機関も少なく（ないに等しい）中、親が一番の理解者であるべきなのに、それができていないことにショックと焦りを感じました。楽しく子育てが出来る親になりたい！と思いました。
 - *ことばの発達について親がきちんと理解していることがだいじということ。何語ぐらい分かっているか理解できていなかったの。
 - *子どもの事をどれだけ理解しているかと言われて「ドキッ」としました。
 - *ことばの発達について分かりました。
 - *助詞をちょうど覚えているところで、「の」にも3つの意味があることや、助詞を覚える流れを知って、とても参考になりました。
 - ひばり学園でも、先生に「なんのためにこの訓練をする」ということは教えてもらうが、次の予約が入っていたりするとバタバタして、詳しく知らされないままのこともあるため。今日助詞を覚えるスライド等、詳しく聞けて良かったです。

- 4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
 *悪いところはありません、ただただショック！を受けました。
 *なし（2）
 *難聴児への情報を受ける支援について、教えてほしかったです。
- 5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。
 *難聴児をもつ親の大変なことを理解した。神戸の方の体験は素晴らしい。長所を伸ばし、短所をカバーする人間はみな同じ。
 *具体的な方法を提示してくださったので、さっそく、取り入れてみたいと思います。教材も使ってみます。
 *すごく分かりやすい先生のお話しでした。個別に先生のところで受けさせたいと思います。
 *先生のしゃべり方はとても楽しくて聞き入ってしまいます。
 *田中先生のお名前は、私が小学校の時から知っていたため（私もろうです）。ことばを教えるエッセンスを分けてもらえて良かったです。
 私は訓練を「受ける側」から「する側」になり、改めて勉強…です。
 ただ今は、手話や身振りも交えながらの「楽しみ」「和やかさ」があって、良いな～と思っています。
 息子の声が大きくて困ると話したら、「能力のある証拠！」と言ってもらえて笑いました。電車や図書館の中で、周りからジロツと見られると私もドキツとするので…。

《遠隔支援システムを理解する学習会》 アンケート 20140329 回答

◎どちらから来られましたか？（17名参加）

（川西市3、神戸市1、西宮市1、宝塚市4、新温泉町1）

- 1、事業の実施は何でお知りになりましたか？
 ・知人の紹介2 ・他（兵庫県難聴児親の会2 サークルの紹介6）
- 2、近くの学校に情報支援はありますか？
 ・ある4 それはどこですか？（西宮市の中学校、宝塚市の小学校、同中学校）
 ・ない3 ・分からない3
- 3、特に良かったと思われたことがあればお書きください。
 *遠隔の利点がいろいろと学べた
 *傍に人がいて支援してくださることに、だんだん考える年頃になってきているのでとても勉強になりました
 *多感な年ごろになった娘にとってピッタリな支援と感じました。
 *仕組みが分かりました
 教育の情報保障と要約筆記はイコールでないと知り良かった！
 技術に走りそうになっていたのを考えるきっかけになりました
 *タブレットを使っの教育の事がよくわかりました

*地域や団体を超えた支援について考えることができた

- 4、特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
*意外と、高校に上がると支援私の必要にしない子どもが多かったこと
- 5、ご意見、ご感想を自由にお書きください。
*保護者の温度で子どもの支援が続くかと思うと考えさせられました
*支援に前向きでない学校にも、理解してくれそうに思いました
*いつも新しい情報、勉強をさせていただきありがとうございます
*今日来てとてもよかったです
*要約筆記と教育情報のことを少しずつ分かってきた感じです
*あっという間の時間でした、ありがとうございました
*ネット社会で機器やソフトの進化が著しくついていくのが大変です
シンプルで利用しやすいシステム作りができればと思います
- 6、お近くの学校で遠隔支援システムの実現は可能でしょうか？
・可能だと思う ・可能ではない ・分からない（8）
- ・実現できるように説明してみたい（5）

ありがとうございました。